

Ⅲ (新) 藤山台小学校の開校について

1 経緯

春日井市教育委員会は、平成 21 年 3 月の春日井市立小中学校適正規模等検討委員会からの「小中学校の適正規模等について」の提言を踏まえ、同年 12 月に、「小中学校の適正規模等に関する基本方針」を策定しました。この基本方針において、「藤山台小学校を最優先に過小規模校の早期解消」の考えが示されました。

小中学校の適正規模等に関する基本方針（平成 21 年）

この基本方針では、過大規模校及び過小規模校について学校の統合や通学区区域の変更などにより、規模の適正化に努めることとしました。

現状では過大規模校はないため、早期に対応が必要な学校としては、ニュータウン地区の過小規模校である藤山台小学校、石尾台小学校、押沢台小学校があげられます。中でも藤山台小学校は、児童数が最も少なく、今後も児童数が減少していく見込みであることや、校区面積が狭く、隣接校と統合しても通学距離の問題が生じないこと、またニュータウン地区内の学校では校舎の建設年度が最も古いことがあげられます。

こうしたことから、藤山台小学校を最優先に過小規模校の早期解消についての検討を進めてまいります。

H21 年当時の児童推計

学 校 名		H21	H22	H23	H24	H25	H26
藤山台小	児童数	154	145	149	140	134	142
	学級数	6	6	6	6	6	6
藤山台東小	児童数	216	208	207	208	203	197
	学級数	7	6	7	8	6	6
西藤山台小	児童数	291	299	313	338	360	383
	学級数	12	12	12	12	12	12

平成 22 年 4 月に、藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年 2 月には、「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合計画」、平成 25 年 2 月には、その第 2 次小学校統合計画が策定されました。平成 25 年 4 月に、藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、平成 28 年 4 月には、西藤山台小学校も統合し、新たな藤山台小学校が開校しました。

なお、西藤山台小学校の通学区域であった白山町 5 丁目は、協議により、不二小学校の通学区域となりました。

統合スケジュール

年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
藤山台小学校			工事	工事	工事	開校
藤山台東小学校			2校統合 (藤山台小学校)			3校 統合
西藤山台小学校						



現在の藤山台小学校は、本市で初めての学校統合を行なった学校となりました。開校後8年を経て、令和6年度には、コミュニティスクール（藤山台学校運営協議会）としてもスタートし、学校運営協議会委員や地域の方々の協力によって、学校と地域が一体となり、地域に根付いた学校運営が行われています。

2 地域の皆様の声

令和6年5月に、藤山台小学校及び藤山台中学校がコミュニティスクールとしてスタートしたことを機に、（新）藤山台小学校の開校について、藤山台学校運営協議会委員の皆様にご意見を伺いました。いただいた意見の中には、いくつかの課題はあったものの、児童生徒にとって教育の環境が改善され、成果のある開校であったと評価されています。

主な意見は次のとおりです。

(1) 課題など今後の取組に参考となる意見

- ① 統合で校区が広がり、通学距離が長くなった児童がいる。
- ② 近年は、さらに児童数が減少している。
- ③ 統合したものの、魅力ある学校づくりには至っていない。
- ④ 2段階の統合も仕方ないが、1度で済む方が望ましいと思う。
- ⑤ 保護者の意見は様々あるため、早めの情報発信が必要である。

(2) 成果など良かった点

ア 子どもへの影響について

- ① 新しい校舎や設備など充実した環境で、過ごすことができる。
- ② 新しい学校として注目され、児童や先生にとって、良い意味で刺激やがんばりに影響を与えた。セキュリティもよくなった。
- ③ 統合したことで、人と関わる機会、時間が増え、多くの事を学び成長できる。
- ④ 児童の数が増え、クラス替えもできるようになり、多くの友達とコミュニケーションができるようになった。
- ⑤ 校区が広がることにより、子どもたちも含め、地域交流が拡大した。
- ⑥ 校風も児童の様子も大きく違っていたが、すぐに子どもたちは慣れて、児童同士の交流が広がった。

イ 学校運営への影響について

- ① 運動会をはじめとする学校行事が活発になった。
- ② 統合と同時に、学校地域連携協議会が発足し、ボランティアに参加する人も増え、地域、学校、PTAのつながりが深まっている。
- ③ 制度を変えたり、新たな活動を始めたりするきっかけとなった。
- ④ 学校が変わり、地域や保護者が学校に関わりやすくなった。
- ⑤ 単学級が解消され、部活動をはじめ、様々な学習等活動の規模が大きくなった。
- ⑥ PTA活動など学校支援活動に参加する保護者が増加した。

ウ 地域への影響について

- ① 地域住民の地域や子どもに対する関心が高まり、地域イベントが充実してきている。
- ② 地域連携室の設立により、地域と協働する体制が確立した。
- ③ 新しい学校へ興味を持つ人の転入が増え、地域が活性化した。
- ④ 統廃合により空いた施設が魅力的に生まれ変わった。